

事業名称	「千姫の小径」ライトアップ事業
団体名	特定非営利活動法人あかりの街ひめじ
協働の相手方	観光課

目的	時の最高権力者・関白の妻というファーストレディであり、将軍家康の、またお市の方の孫でもある千姫。その輝かしい名前を冠する「千姫の小径」ではあるが、観光資源として認知の薄いこの道のライトアップ等により、通行の安全・安心と認知度の向上、千姫神社、男山などとともに地域の宝物（＝シビックプライド）だ、という住民意識の高揚によって、観光客の増大、大河ドラマ採用への支援、商業施設の誘発による地域経済の振興を図る。
内容	遊歩道の魅力向上を目指し、1）手すり沿いの地表に電球色および多変色のライン照明の設置、2）2m間隔でフットライトの設置、3）世界遺産登録30年を記念するロゴマークの投影、4）観月会に合わせて、石垣に千姫を題材にしたプロジェクションマッピングの投影を行う。
事業経過	7月：観光課との協議。関係部局（文化財課、姫路城総合管理室、姫路警察）と許認可に関する協議。 8月：実施計画作成。観光課協議。関係部局協議。8～9月：許認可申請。 9月：観光課協議、事業実施。 10月：成果等の検証 11月：事業結果取りまとめ
事業の効果	1、観光客を含め、当初予想以上の来場者があった。2、あかりの演出により、安全と安心の向上が図れた（来場者アンケートより）。3、この小径の好感度を上げることができた。 4、継続できれば、新たな事業展開が周辺地域で期待され、地域経済の発展に寄与すると思われる（アンケートの結果から想定）
今後の展望	樹木が繁茂すると、ポール型照明は、葉陰を作り路面が暗くなる。しかし足元を照らす今回の方法では、十分な明るさと安心を提供でき、かついっそう雰囲気のある照明環境を提供できた。こうした提案を地域や市に行い、美しさと安心を提供したい。 さらに千姫の小径の地域資源としての効果を高めるため、実施した照明環境の常設化に向けての取り組みに努める。 また、姫路城の各種イベントに合わせて、テーマに沿ったプロジェクションマッピングの提案を行うよう、その実現に向けて力を注ぐ。

【実施団体の事業総括・感想等】

全体に好評で、所期の目的は達成できたと考えている。ただ、地元自治体や千姫と関わる諸団体との連携ができれば、もっと大きなうねりが生まれたと考えられ、今後はそうした皆さんを巻き込んだ活動方法を探りたい。また今回の照明環境を、一時的でなく常設施設とすることが重要と感じており、実現に向けて姫路市の協力が得られるような方策も一考に値する。
あかりの演出でブランドが向上する地域は、城周辺だけでも多数あり、次年度の課題と考える。

【協働の相手となった所管課の感想等】 ※実施団体は記入しないでください

周辺地域ひいては本市への観光誘客に資する点及び千姫の大河ドラマ誘致に向けたPRに繋がる点において市の施策に合致し、また公益性の高い事業であった。引き続き、事故防止について地元、警察及び本市との調整等を、関係課として「あかりの街ひめじ」と協働し、解決していきたいと考える。